

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第16号

2011年9月13日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

外注化阻止・非正規職撤廃 職場から闘い11・6へ



450人が結集し、JRの偽装請負にストライキで闘うことを宣言した8・30集会（東京・錦糸町＝記事は裏面）

全国に闘う労働運動を

関西生コン支部 高英男副委員長

6月5日の国鉄集會では主催者あいさつをする予定だったんですが参加できず申し訳ありませんでした（笑）。早くも8月から9月ぐらゐまではあかんやろと思いましたが、弁護団が頑張って交渉してくれて7月22日に保釈で出ることができました。



簡単に「事件」に触れまうと、事件があったのは昨年5月14日です。逮捕されたのが今年の5月11日ですから1年前のことなんです。

これまでの関西生コン支部への弾圧と今回の弾圧の違いは、労資関係のある工場でピケッティング・ストライキを行ったことを事件にされていることです。今回は、直接の労資関係があつて組合員がおられるわけです。そこでのストライキを威力業務妨害だとやられたわけです。

今回は労資関係のあるところに権力側が踏み込んで13人逮捕ですよ。労働組合が当たり前にする大衆行動で、組合員の一般の動員で、現場の中でさして重要な役割を担ってない組合員を多く逮捕している。それが今回の弾圧の卑劣さ、本質です。相手側の狙いがどこにあるかがよく見える弾圧だと思います。

1年前の件で無理やりこいつう弾圧をやったのは、間違いなく昨年の139日に及ぶゼネストによって、大林や竹中、清水

建設の、戦後日本のセネコンの中で止まったことのない現場を止めたのが引き金になってはいませんが、今回の弾圧の質は、労資関係がある職場で、われわれのストライキ権そのものが侵されるような弾圧なんです。これから裁判で争点になると思いますが。

スト権までが侵されている

相手が進んでやられる要因もあるんです。日本の労働運動がそこまで沈滞しているからです。

話がそれますが、1987年に外資法で指紋捺捺拒否の闘いが全国的に広がりました。あの時には、指紋捺捺をやらぬことは刑事罰の対象になっていました。それが全国的にあそこまで広がると法解釈は変わるわけですよ。全国レベルの闘いがあるれば、法律は変えざるをえないんです。少なくとも僕らは、そういう闘いを過去に経験している。しかしそれが労働運動でまったく生かされていない。

日本ではまだ、労働組合には刑事罰や民事罰の免責条項があるんです。でもそれは完全に形骸化されている。関西も、港合同も動労千葉も、法廷ではことごとく負けるわけでしょう。我慢じゃないですが関生は裁判で勝ったことないですよ（笑）。たえず損害賠償の対象にされる。

言い換えると、現場に闘いがないから、法解釈が敵の都合のいいものになっていくわけです。法を無視してやると「無法集団」みたいなことを言われま



言いがた、全国で当たり前前に労働者が自分の要求を実現するために職場で闘いの火の手をあげれば、法解釈は変わるわけです。これまでの11月労働者集會では、全国各地に闘いをつくらうという呼びかけを十何年もやってきました。当然、闘いはほとんど広がっていません。しかし向こうが大手を振って本来触れてはいけないようなストライキ権に手を突っ込むような弾圧をやってくるのは、この運動がまだ十分でない証でもあるわけです。

職場から無数の闘いを

じゃあ、どうやって労働組合が力を復権するかといえば、現場でいろんな闘いが出てくることです。同じ組織であろうがなからうが、共闘しようとして

この時期に、闘う労働運動が広がらないのはおかしい。広がるはずなんです。労働者が本当の意味で最後に頼れるのは労働組合、労働運動ですから。そういう運動を全国に網の目のように広げる闘いを、ぜひこの集會を通して作っていきたいと思います。（8月の集會実行委員会の発言を編集しました）

新たな呼びかけ人 シンデラー・シーハンさん（アメリカ反戦の母）

11・6全国労働者総決起集会

とき 11月6日（日） 正午
ところ 日比谷野外音楽堂

午前10時～青年集會／午後3時半～デモ出発

反原発・反失業！

国鉄1047名解雇撤回！ 非正規職撤廃！

たたかう労働組合の全国ネットワークをつくらう！

いまい、全国で当たり前前に労働者が自分の要求を実現するために職場で闘いの火の手をあげれば、法解釈は変わるわけです。これまでの11月労働者集會では、全国各地に闘いをつくらうという呼びかけを十何年もやってきました。当然、闘いはほとんど広がっていません。しかし向こうが大手を振って本来触れてはいけないようなストライキ権に手を突っ込むような弾圧をやってくるのは、この運動がまだ十分でない証でもあるわけです。

今年の11月集會については、3月の東北の震災によって、原発という重たい問題を提起されていますが、それとセットでこの集會を闘い上げる。そのことを全国の労働者、労働組合に提起して、新たな闘う陣形を、資本や権力側の安易な弾圧を許さない陣形、体制をつくることに鋭く求められていると思います。理屈だけでは闘いになりませんから、現場で汗をかいて、場合によっては体を張って、パクラも通して作っていきたいと思います。（8月の集會実行委員会の発言を編集しました）

さきほど事務局会議で、いまの労働者の置かれている状況の話がありました。港合同や動労千葉と同じように、われわれのところにも多くの労働相談があります。非常に高学歴で、名のある大学を出て、専門技術を持っていても、派遣で生活できないような収入であえいでいるという相談が非常に多いです。ちなみに私は中卒です。しかし人並み以上の収入を得ています（笑）。これは労働運動のおかげや、と（笑）。この社会は学歴社会とか言っていますが、学歴は労働者の生活や権利を守らない。労働組合の闘い以外に、生活や権利を守ることはできないという証でもあるわけです。

「偽装請負を告発し、ストライキで闘う」

8・30 動労千葉が外注化阻止の大集会



動労千葉と国鉄闘争全国運動は8月30日、東京・錦糸町の「すみだ産業会館」で「JR東日本の偽装請負を告発する8・30大集会」を開催しました。動労千葉は、京葉車両センターの構内業務外注化阻止へストライキと組織拡大で闘う闘争宣言を發しました。

集会には、動労千葉各支部の組合員や動労千葉を支援する会、各地で奮闘する青年労働者など450人が結集し、JRの業務外注化「偽装請負」に対して職場からストで反撃に立ち上がることも、労働者を非正規職化する最大の元凶である新自由主義と真正面から闘いぬき、この渦中で組織拡大へ前進することを確認しました。

田中委員長が「職場支配権を奪い返し、組織拡大へ」とあいさつを行った後、全国運動呼びかけ人の伊藤晃さんと動労千葉を支援する会の山本事務局長が發言、川崎昌浩執行委員が01年

以来の外注化阻止闘争の意義と攻防の現局面について報告(別掲)、動労千葉弁護団の石田弁護士が業務委託阻止の仮処分提訴の報告を行いました。京葉車両センターで働く青年組合員が「動労千葉に入って力があると実感した。どのような攻撃がきても全力で闘う」と決意を示しました。

自治体(別掲)や教育、合同労働の仲間の決意表明、動労千葉の長田書記長が「会社が外注化要員に対する教育訓練を開始した報告をし、「毎日、会社を追い詰め、会社で威張って、対等に文句も言えるけど、それができるのも労働組合を結成したから。うちの組合はあくまでも解雇撤回で闘う。資本との闘いは最終的には力関係、労働者が団結すれば必ず勝てる。今日来ているすべての皆さんにもできる、ともに闘おう」と訴えました。

そのほかにもこの間分會を結成した女性労働者からの發言など、大野さんも強調していた「労働者は群れて、学んで、闘うこと」という実践と一体となった感動的な講演会でした。今回の講演会は、青年労働者

した時点から動労千葉は直ちにストに入る。この闘いの中で組織拡大を実現し、絶対に外注化

闘いの中で組織拡大を

川崎昌浩(動労千葉執行委員)

JRにおいて、2000年以降から「第二の分割・民営化攻撃」が始まりました。その中心の攻撃が業務の外注化として行われています。すでに施設や電気、信号通信などは丸ごと外注会社に委託され、それともなうてJR東日本全体で3000人が出向に駆り立てられています。さらに運転職場においても検修構内業務の外注化が進められ、千葉支社以外では構内業務の一部がすでに外注化されています。

しかし、千葉ではこの10年間、本格的な外注化は一步も進められていません。それは私たち動労千葉のもとに組合員が団結し、数十回に及ぶストライキや

を阻止しよう」と闘争方針を掲起しました。

大衆闘争を含む抵抗闘争を徹底的に闘い抜いてきたからです。なによりも最大の反撃として組織拡大を実現し、青年部結成準備委員会という形で青年労働者を結集しつつある。

いま、JR東日本は検修構内業務の全面外注化の提案を行っています。その突破口として、京葉車両センターでの構内業務の委託提案を行っています。も

外注化先の労働者も闘う

橋本武朋(全国運動・東部の会共同代表)

自治体職場で働く民間委託の労働者として連帯のあいさつをしたいと思っています。私たち委託労働者は委託化・外注化に反対だ、という立場をまず申し上げたい。それは自分たちが身をもってその委託の内実を知り、その矛盾を一番感じているからです。

自治体業務を民間に委託する際に「歳出削減」「効率化」ということが言われます。しかし、歳出削減とは、公務員労働者そのものを削減するということな

んです。民間に安い人件費でやらせる。これが歳出削減だと。効率化を図るといのは方便であって、公務員と民間労働者に差はない。効率化というのは結局、利潤を生まないところを切り捨てること、つまり安全を切り捨てることです。

(投稿/東京西部ユニオンS)

し全面外注化が行われた場合には、検修構内で1500名を出向させるとJRは言っています。そうなれば、国鉄採はもちろん、やっとJRに就職して、これで安定した生活が出来ると思っていた平成採の仲間たちの将来は完全に吹っ飛びます。出向・転籍、その先は今の社会状況が教えているとおりです。

構内業務の外注化は100%偽装請負です。入替業務の通告に当たっては発注者であるJRが指示しています。運転士への教育もJRが行うとの契約が結ばれています。業務委託を受け

千葉鉄道サービス社は、先日の団体交渉において、「千葉

鉄道サービスとしては入れ替え業務の経験や技術はない」と明確に回答しました。これは100%偽装請負になります。動労千葉は労働局への告発、厚生労働省への申告、さらに外注化の差し止め訴訟も含めてあらゆる手段を使って徹底的に闘い抜きます。なにより職場からのストに立ち上がる、ここに一切がかかっていると思います。本日の集会を期して動労千葉は臨戦態勢に入ります。民営化・外注化と真正面から立ち向かい、階級的労働運動の復権に向けて全力で闘い抜き、その力で11・6集会1万人結集を絶対に実現したいと思っています。

と思います。だから委託化・外注化というのは、すべての産業に携わる労働者の問題です。だからこそ、すべての労働者の闘いであるべきです。

今、動労千葉の外注化阻止闘争は、私たち委託労働者の闘いとまったく同一です。外注化阻止の闘いというのは、どこかあらかじめ落としどころをつけて闘うのではなく、絶対反対で闘うことだと思っています。

ではすでに外注化されているところはどうするのか。その労働者を組織して、外注化粉碎の闘いを取り組むということ。外注化粉碎とは何なのか。それは、そこで働く労働者が、賃上げ、あるいは職場の安全確保といった改良闘争を徹底的にやって外注化によって生み出された利潤を労働者の側に取り返すことです。外注化阻止はそうした外注先の労働者との団結によって一層幅広い闘いになるだろうと私は確信しております。

労働者が団結すれば必ず勝てる

東京西部で大野義文さん招いて講演会

9月2日に「ケンカの仕方教えます!!」というタイトルで国鉄闘争全国運動の呼びかけ人である、元安全労働基準監督局長の大野義文さんを招いての講演会を行いました。

「ウチもオモテも知りつくした、労働争議のプロが、会社・企業とのケンカの仕方教えます! フリーターもパートもみんな集まろう」と呼びかけ、杉並区高円寺に148人が集まりました。

主催者の青年は、仕事を首に

なり部屋から追い出された経験

を語り、「今は、資本家は責任

を取らなくても良い社会、この国のシステムそのものを変えるために呼びかけた」とあいさつ。

も思っていない」と断罪。

それに対してどう闘うのか。大野さんは「あくまで職場に団結を! 地域に連帯を!」「俺たちは労働者なんだということ、労働者の仁義を守る、つまり競争・効率を排除し、働かざるに、怠けないということが大事」と熱く訴えました。

討論では、東京西部ユニオンの鈴木コンクリート分会が「只今ケンカ中!」と非正規の職場で労働組合を結成し闘ってき

た報告をし、「毎日、会社を追い詰め、会社で威張って、対等に文句も言えるけど、それができるのも労働組合を結成したから。うちの組合はあくまでも解雇撤回で闘う。資本との闘いは最終的には力関係、労働者が団結すれば必ず勝てる。今日来ているすべての皆さんにもできる、ともに闘おう」と訴えました。

そのほかにもこの間分會を結成した女性労働者からの發言など、大野さんも強調していた「労働者は群れて、学んで、闘うこと」という実践と一体となった感動的な講演会でした。今回の講演会は、青年労働者